

日本海水学会若手会第5回学生研究発表会を終えて

実行委員長 岡田 昌樹*

大雪で開催が危ぶまれる中、3月5日（水）から7日（金）の三日間の日程で、日本若手会第5回学生研究発表会ならびに記念講演会を日本大学軽井沢研修所にて開催されました。

この学生研究発表会は、平成21年に第1回が千葉工業大学で開催され、今回、第5回目の節目の研究発表会を迎えることになりました。その参加者ならびに発表件数は毎回増えており、今回は発表件数のべ41件（口頭発表19件、ポスター発表22件）、参加者数68名（学生会員35名、若手会員ならびに一般33名）という規模となりました。

今回の研究発表会のスケジュールを簡単に紹介させて頂くと、3月5日の初日は15:30から9件の口頭発表を、2日目は午前中に口頭発表10件、午後にはポスター発表と記念講演会を行いました。口頭発表（写真1）は学部4年生が卒業研究で取組んだ内容を余すことなく発表してもらいたいという思いから、講演時間10分、質疑応答2分（最大5分まで延長可能）とさせて頂きましたが、活発な質疑もあって発表時間が短く感じられたのではないのでしょうか。ポスター発表（写真2）は研修所の回廊部分で開催し、比較的スペースに余裕があったことから、コアタイムをもうけることなく90分間の発表時間としました。発表中、会場には人が溢れ、活発な議論がされていたように思います。発表全体をとおして、学生が一生懸命に研究に取り組んだ様子がうかがえる発表会となったように思えます。

ポスター発表終了後、優秀賞の投票が行われました。今回、第5回目という節目の発表会ということもあり、通常よりも多い8名の発表者に優秀賞が授与されました（写真3）。受賞された発表者と発表タイトルを紹介させて頂きます。受賞された皆さん、本当におめでとうございます。また、発表いただいた全ての学生の皆さんの益々のご活躍を心より願っております。

優秀賞受賞者（敬称略50音順）：

石崎啓太（工学院大・工）

物質移動係数の膜透過流束依存性に関する研究

大野真知嗣（日大・生産工）

N_2 ファインバブルを用いた貧溶媒晶析法による α 型インドメタシンの生成促進

齊藤豪大（埼大院・文化科学）

17・18世紀スウェーデンにおける製塩環境
—スウェーデン外交関係者の史料を例に—



写真1 口頭発表の様子



写真2 ポスター発表の様子



写真3 優秀賞受賞者の記念撮影

* 日本大学生産工学部（〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1）
TEL：047-474-2542、E-mail：okada.masaki@nihon-u.ac.jp

佐藤可奈（秋田県立大・生物資源）

食塩のにがり成分が塩蔵加工時における野菜の組織内部状態および食感に与える影響について

戸村 俊（横国大・工）

回転同期・高速撮影による固液攪拌槽内における攪拌羽根への粒子衝突現象の直接計測

長島由樹（千葉工大・工）

オゾンマイクロバブル供給によるヨードかん水からのヨウ素浮選分離

西村卓朗（大薬大）

極少量医薬品の微粒子化を指向した NaCl の有効活用法

波多野正治（徳島大・工）

圧力駆動型蒸留システムの動的モデル開発

ポスター発表終了後、ソルト・サイエンス研究財団に共催いただいた日本海水学会若手会第5回学生研究発表会記念講演会を開催いたしました（写真4）。記念講演会は「海水からの高品位資源の獲得に向けた分析技術と分離技術」と題し、4名の講師にご講演いただきました。記念講演会に先立ち日本海水学会若手会会長の外輪先生より講演会の趣旨に関するご紹介をいただいた後、次のタイトルでご講演いただきました。

講師と講演タイトル（敬称略講演順）：

齊藤和憲（日本大学生産工学部）

オンライン化学種変換法を利用した高選択的 HPLC システムの構築

星野 毅（日本原子力研究開発機構）

イオン液体含浸有機隔膜による海水からのリチウム資源回収

野田 寧（塩事業センター海水総合研究所）

塩に関する様々な分析技術

山田和典（日本大学生産工学部）

酸化還元酵素を利用した環境汚染物質の除去と水質浄化への応用

各講演後に設けた質疑の時間には会場から多数の質問があり、記念講演会の後に行われた懇親会の会場でも講師の先生には質問を受けて頂きました。講師の方には貴重な内容のご講演を頂きましたこと、また、お疲れのところ長時間にわたる質疑を受けて頂きましたことに心より感謝申し上げます。

今回、初日の夜に学生主催の学生懇親会と若手会主催の若手懇親会を、2日目の夜に優秀賞の表彰式をかねた、研究発表会としての懇親会を開催しました。初日の懇親会で親しくなった学生同士が、2日目の発表会では口頭発表やポスター発表で質問しあう様子は、とても印象的でした。

研究発表会最終日となる3日目は参加者間での親睦をはかる企画として「カーリング体験」を実施しました（写真5）。ソチオリンピックでイメージトレーニングが十分な参加者は意気揚々と会場である“カーリングホールみよた”に足を踏み入れたのですが、やはり観るのとやるのとでは大違いで、氷の上を転がりながら楽しい時間を過ごすことができました。是非、このようなスポーツイベントが今後も開催されると良いと思いました。

今回の研究発表会の開催直前の2月にかなりの積雪があり、事前情報として軽井沢辺りは交通が麻痺状態とのこと



写真4 記念講演会の様子



写真5 親睦会（カーリング体験）

でしたので、実行委員長として「開催」と「中止」の判断に迷いました。しかし、蓋を開けてみると交通事情も改善し、参加者の皆様に無事に参加いただくことができました。

開催にあたり多岐にわたりサポートいただきました若手会幹事の皆様方、記念講演会の趣旨にご理解いただき共催いただきましたソルト・サイエンス研究財団、記念講演会の貴重なお話をしてくださった講師の先生方、そして何よ

りも貴重な研究成果を発表してくれた学生の皆さんに心より感謝申し上げ、第5回学生研究発表会報告とさせていただきます。

今回参加いただいた皆様（写真6）と、沖縄（海水学会年会）もしくは室蘭（次回学生研究発表会）という両極端な何方かの地でお会いできることを楽しみにしております。



写真6 日本海水学会若手会第5回学生研究発表会記念